今回、団長として児童・生徒27名、引率含め総勢34名で国際交流ホームステイの旅 in シンガポール2011に参加いたしました。私としては、シンガポール訪問は3回目で、ホームステイの旅は2回目の参加となりました。シンガポールを訪問する度に、国全体が発展しエネルギッシュになっていることを感じます。

データ的には、人口は約517万人で GDP の実質経済成長率は世界のトップクラスであると報告されています。また、人口分布にも非常に特徴があり、中華系が約77%、マレー系が約14%、インド系約8%でその他が約1%です。言葉も人口に沿って多言語の国であります。しかし、共通語として、英語が使用され、学校を始め教育関係等は全て英語を用いています。

さらに、シンガポールは資源の無い国であり、農業生産もほとんどありません。 国の方針として、将来を担う有能な人材を育成するため教育に力を入れています。

この様な中で、美浜町とシンガポールとのホームステイ国際交流は、2004年に始まり今年で7年目に入りました。小学生の訪問先は、「イーミン小学校」で、中学校の訪問先は2008年から始まりました「ニーアン中学校」です。

今回初めて、中学校の生徒がホームステイしたお宅を訪問しました。感想は、現 地家族のとても温かい受け入れに対し、安心すると同時に感謝の気持ちでいっぱい になりました。

各学校の授業の様子も見学させていただきました。ニーアン中学校では、コンピュータを使った授業が大変盛んで、マイクロソフト関係では、世界の優れた学校の30校に入っていると報告を受けました。訪問先の両学校とも、校長先生を始め教育には、非常に熱心なことが解かりました。先生と児童生徒の数は1対40で日本と大きく違いはありません。また、習熟度別のカリキュラムも組み込まれており、児童生徒に合った内容になっているようです。

参加した子どもたちの参加前の表情と参加後の表情を比べて見ますと、自信にあ ふれ参加して良かったとはっきり実感していました。おそらく学校の行事以外に親 元を離れ、しかも言葉が通じないホームステイ先へ一人で泊まることは始めてでし ょう。それでも、英語をもっと勉強しておけばよかったとか、英語が話せなくて悔 しかったといった意見を耳にしました。全てが新鮮な経験となったことでしょう。 また、食事についても、国及び文化の違いを理解しなければならないことも貴重な 体験になったと思います。

私としては、シンガポールとの国際交流事業につきましては、関係を築いていた だきました先人先輩に感謝申し上げ、本事業を継続していきたいと考えています。

参加した美浜町の子どもたちが、国際交流で感じた貴重な経験が必ず将来に活かされるものと信じています。そして、美浜の子どもたちが将来、世界へと羽ばたき、活躍されることを心からお祈りいたします。

最後に、今後とも関係各位のご理解、ご協力をお願い申し上げて参加の報告といたします。